

インド

感染再拡大で高まる景気下振れリスク

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 熊谷 章太郎

E-mail: kumagai.shotaro@jri.co.jp

■感染再拡大を受けて活動規制が厳格化

2020年半ば以降、インド景気は、ロックダウンの段階的な緩和に伴い持ち直しが続いている。PMI（購買担当者指数）は足元横ばい推移が続いているものの、景気判断の分かれ目となる50を上回っており、緩やかながらも着実に景気拡大が続いていることを示している（右上図）。また、世界的な株高や景気回復への期待を背景に、代表的な株価指数である SENSEX 指数も上昇基調を保っている。こうしたなか、2021年3月初旬までは、ワクチン接種が広がるなかで活動制限が段階的に緩和され、景気回復が続くとの見方が大勢を占めていた。

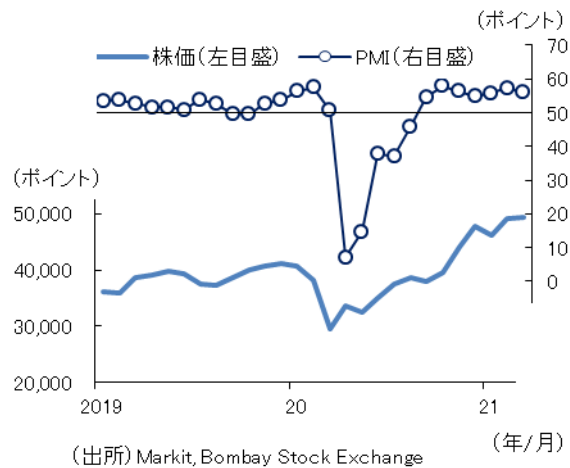
しかしながら、従来の新型コロナよりも感染力が強いとされる変異株の感染が確認されて以降、感染拡大ペースが大幅に加速しており、それに伴う景気下振れリスクが高まっている。3月初旬まで一日あたり1万人台で推移していた日次の新規感染者数は、4年半ばに20万人を超えて急増しており（右下図）、マハラシュトラ州やデリー準州をはじめ、感染拡大が著しい地域の政府は活動規制策を相次いで導入した。具体的には、集会制限、夜間外出制限、飲食店や娯楽施設の営業時間短縮、州をまたぐ移動者の陰性証明書の携行義務化等が挙げられる。

現在実施されている対応で感染再拡大に歯止めが掛からなければ、政府が昨年のような厳格なロックダウンを実施するとの見方も出ているものの、その可能性は小さいとみられる。前回のロックダウンでは、失業率が急上昇するとともに、州をまたぐ移動制限を理由に帰郷することもできない出稼ぎ労働者の栄養状態の悪化や自殺の増加といった深刻な社会問題が生じた。その結果、感染拡大が続くなかでもロックダウンの緩和を余儀なくされた経緯を踏まえると、政府はその二の舞を避けるとみられる。

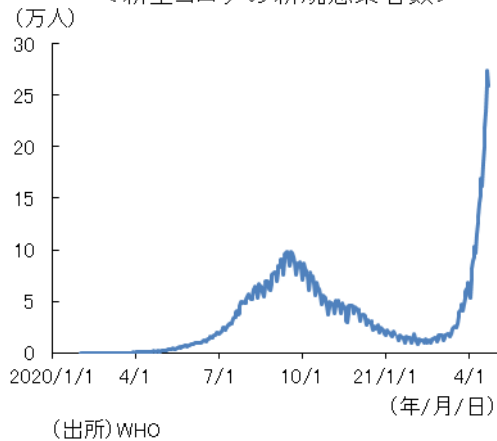
■国内接種のワクチン確保を優先

活動規制とともに感染動向を左右する新型コロナのワクチン接種の状況を見ると、インドでは2021年1月にワクチン接種が開始され、4月上旬に累計接種回数が1億回を突破する等、比較的早いペースでワクチン接種が進んでいる。しかし、足元の感染急拡大を受けて国内のワクチン接種ペースをさらに加速させる必要が高まるなか、国内接種用のワクチン確保を優先するため、政府がワクチン輸出を制限し始めたと報道されている。インドはワクチンの共同購入と分配の国際的枠組み「COVAX ファシリティ」における主要供給国であるため、同ファシリティ経由で供給を受ける各国のワクチン接種計画に支障を来す可能性がある。

< 株価 (SENSEX 指数) と PMI (購買担当者指数) >



< 新型コロナの新規感染者数 >



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。